

(社) 日本建築学会 近畿支部  
2013 年度第 5 回空気環境部会議事録 (案)

日時：2014 年 3 月 3 日 (月) 14:00-17:20

場所：大阪市立大学 梅田サテライト講義室 102 教室

出席者：東 (実)、安福、井上、小城原、甲谷、河野、小林、竹田津、檜崎、藤田、  
山中 (主査)、桃井 (幹事)、萬羽 (幹事、記録)

- 資料：・議事次第 資料 5-1
- ・2013 年度第 4 回空気環境部会議事録 (萬羽幹事) 資料 5-2
  - ・平成 26 年度部会費決定通知 資料 5-3
  - ・第 5 回空気環境シンポジウムプログラム (桃井幹事) 資料 5-4-1
  - ・第 5 回空気環境シンポジウムポスター (桃井幹事) 資料 5-4-2
  - ・二酸化炭素濃度の上限値 1,000ppm に関する資料 (山中主査) 資料 5-5
    - 山中俊夫：二酸化炭素濃度の上限値，建築と技術 (校正原稿)
    - 日本建築学会 編：都市・建築空間の科学—環境心理生理からのアプローチ，  
3.1 建物における必要換気量，技法堂出版，pp.91-101
    - 山中俊夫 訳：換気の背景にある哲学：過去、現在、そして未来
    - 〔 Fanger PO : The philosophy behind ventilation: Past, present and future, 〕  
〔 Proceedings of INDOOR AIR '96, Vol.4, pp.3-12, 1996 〕
    - Janssen JE : The V in ASHRAE: An historical perspective, ASHRAE Journal, Vol. 36  
(No.8), pp. 126-132, 1994
    - 檜崎正也：必要換気量について (学会換気規格案に関連して)，  
空気調和・衛生工学会近畿支部環境工学研究会，pp.13-26, 1985
    - 吉沢晋：室内環境基準と必要換気量，空気調和・衛生工学，Vol.54 (No.4)，pp.301-307, 1980
    - 渡辺英行 訳：換気の必要性についての概念の変遷，空気調和・衛生工学，Vol.51 (No.10)，  
pp.1130-1134, 1977
    - 〔 Klaus AK, Tull RH, Roots LM, Pfafflin JR : 〕  
〔 History of the changing concepts in ventilation Requirements, ASHRAE Journal, 1970 〕
    - Yaglou CP, Riley EC, Coggins DI : Ventilation requirements,  
Transactions American Society of Heating and Ventilating Engineers, Vol. 42,  
pp.133-162, 1936
  - ・第 23 回空気シンポジウム実施計画書 (山中主査) 資料 5-6
  - ・国内の代表的基準について (河野委員) 資料 5-7

議事：

0. 新委員の紹介

- ・新委員として、小城原委員 (日本カノマックス株式会社) が紹介された。

1. 前回部会の報告

- ・萬羽幹事より、前回部会 (2013 年度第 4 回) の内容が報告された。 [資料 5-2]
- ・追加事項として、山中主査より、前回部会終了後に、第 5 回空気環境シンポジウム第 1 部の「1-2. ISO」の講演を伊藤一秀先生 (九州大学) に依頼したことが報告された。
- ・ISO16814 の和訳については、期日は定めのないものの、引き続き完成を目指すこととなった。

## 2. 次年度部会費決定について（報告事項）

- ・山中主査より、次年度部会費決定について報告された。2014年度部会費は、80,000円となった。  
（2013年度より1万円増）

[資料 5-3]

## 3. 第5回空気環境シンポジウムについて

### 全体の進行等について

- ・山中主査より、第5回空気環境シンポジウムのプログラムおよびポスターの紹介と、広報のお願いがされた。 [資料 5-5]
- ・当日の進行について、以下のとおり役割分担がされた。
  - 受付・会計…萬羽幹事
  - 趣旨説明…山中主査
  - 第1部司会…藤田委員
  - 第2部司会…小林委員
  - 第3部司会…桃井幹事
- ・発表時間は1人当たり25分程度を予定しているが、原稿提出後に内容をみて時間調整する可能性がある。
- ・CPD単位取得については、第3回シンポジウムにて対応したが、利用者が少なかったことから、第4回シンポジウムでは対応しなかった。第5回シンポジウムにおいては、協賛団体より依頼があった場合は対応を検討する。（現在までのところ、依頼はない。）
- ・協賛団体として、NPO法人日本健康住宅協会への依頼が検討された。檜崎委員より事務局に連絡をとっていただくことになった。⇒その後、事務局より承諾が得られた。（2014年3月4日）
- ・山中主査より、竹田津委員と小城原委員（日本カノマックス株式会社）にシンポジウム会場での企業展示について提案された。会場後方で、休憩時間を中心に展示が行われることとなった。
- ・会費について、協賛団体に所属する場合は会員価格で対応することが確認された。
- ・山中主査より、協賛団体の空気調和・衛生工学会近畿支部のMLで広報予定であることが報告された。建築学会近畿支部環境工学部会でのMLでの広報についても確認された。
- ・シンポジウム終了後の懇親会の開催が提案された。

### 国内の代表的基準について

- ・河野委員より、第1部「1-3. 国内の代表的基準」の発表概要について提案された。
- ・最初に全体像の紹介を行うこととし、その中では大気汚染防止法や興業場法についても触れる。建築時の基準として建築基準法、SHASE-S102-2011、維持管理基準として建築物における衛生的環境の確保に関する法律、学校保健安全法、AIJ STANDARD（ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、微生物、VOC、臭気）については、基準値等の比較を行う。
- ・上記の法令・基準について、「国内外各種法令・基準における換気・空気質基準」の担当者は河野委員に資料を送付する。

## 4. その他

- ・次回部会

日時：2014年5月8日（木）16:30-18:30

場所：大阪市立大学 梅田サテライト講義室 105教室

部会内容：2014年度計画 等

以上